

開催要項

全国ボランティア コーディネーター研究集会2015 (JVCC2015大阪)

大阪開催

NPO・施設・
団体の
ボランティア
担当者

中間支援
組織のボラン
ティアコーディネ
ーター

行政の
市民協働担当者
企業の
CSR担当者

その他、
ボランティア
コーディネー
ションに関心
のある人



テーマ

こえっ こえっ こ
超・声・肥エル

≪ボランティアコーディネーション≫

～カギは「越境」と「わくわく感」～

前日企画も
あるよ!

開催日 2015年2月28日(土)～3月1日(日)

会場 ドーンセンター、OMM、CANVAS(キャンパス)谷町、
ホテル京阪会議室(大阪市中央区) 地下鉄・京阪「天満橋」駅周辺

定員 250人

参加費 13,000円(一般)、10,000円(JVCA正会員、準会員)
※「WEB早割」ならそれぞれ1,000円割引

受付締切 2月6日(金)午後5時必着
※「WEB早割」の締切は、1月31日(土)午後5時必着

申込 URL ▶ <http://jvcc-web.jimdo.com/>

f JVCCのfacebookページ
www.facebook.com/jvcc2015



独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

【主催】全国ボランティアコーディネーター研究集会2015実行委員会
認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)

【協力】社会福祉法人大阪ボランティア協会

【問合せ】全国ボランティアコーディネーター研究集会2015実行委員会大阪事務局(社会福祉法人大阪ボランティア協会内)
〒540-0012 大阪市中央区谷町2丁目2-20 2階 電話:06-6809-4901 FAX:06-6809-4902
Eメール: jvcc2015@jvca2001.org

【後援】大阪府、大阪市、堺市、社会福祉法人大阪府社会福祉協議会、社会福祉法人大阪市社会福祉協議会、社会福祉法人堺市社会福祉協議会、
社会福祉法人全国社会福祉協議会、社会福祉法人中央共同募金会、認定特定非営利活動法人日本NPOセンター、
認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会、一般社団法人環境パートナーシップ会議、
特定非営利活動法人国際協力NGOセンター、独立行政法人国際協力機構関西国際センター、一般財団法人自治体国際化協会、
一般財団法人児童健全育成推進財団、特定非営利活動法人日本病院ボランティア協会、公益財団法人日本YMCA同盟、
特定非営利活動法人関西NGO協議会、特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会



開催趣旨

全国ボランティアコーディネーター研究集会は、1994年に第1回が開催されて以来、一貫してボランティアコーディネーションに携わる(あるいはその養成に関わる)実行委員による手作りの研究集会として発展してきて、今回で21回目を迎えます。

また、日本ボランティアコーディネーター協会は、ボランティアコーディネーションを「ボランティア活動の意義を認め、その活動のプロセスで多様な人や組織が相互に対等な関係でつながり、新たな力を生み出せるように調整すること」と表し、その先には市民の一人ひとりが主役として参加できる「市民社会」を見据えています。

昨今、わたしたちを取り巻く環境は変化が著しく、社会課題はますます複雑かつ多様化しています。そのようななかで、ボランティアコーディネーションにかかわるみなさんには、解決が困難と思える課題であっても、簡単にあきらめることなく、市民の参加の力を信じて、実践を続けてほしいと願っています。そのカギは、たとえば、自分のなかの常識にとらわれず限界を**超えて**みること、一人で抱え込まずまわりに**声**を届けてみること、「越境」する勇氣と「わくわく感」をもって仲間とチャレンジし続けること、などが考えられます。

現状の課題を解決していくカギは何なのかを探るためにも、この研究集会において活発な議論がなされ、知識や技術がより一層磨かれ、さらに新たなネットワークの築きの場となることを心から願っております。そして何よりも、ボランティアコーディネーションにかかわるみなさんが元気になって各地に戻り、実践を積み上げてくださることが、今よりも**肥えた**市民社会になる近道だと信じてやみません。

JVCC2015実行委員長
早瀬 昇

参加対象

以下のような分野で実践経験を積んでいる方、分科会のテーマで課題意識をもって参加できる方

- ①社会福祉・介護、教育、環境、国際交流・協力、まちづくり、災害救援など**様々な分野で活動するNPO・NGO**で、ボランティアの受け入れ・活動支援を担当するスタッフ
- ②高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童福祉施設等の**社会福祉施設**で、ボランティアの受け入れ・活動支援を担当するスタッフ
- ③**病院、医療関連施設**で、ボランティアの受け入れ・活動支援を担当するスタッフ
- ④図書館、博物館、動物園、水族館などの**社会教育施設**や文化ホールなどの**文化芸術施設**、公立公園などの**公共空間**で、ボランティアの受け入れ・活動支援を担当するスタッフ
- ⑤小・中・高校、専門学校、大学・短大などの**教育機関**で、生徒・学生のボランティア学習などを推進している担当スタッフ(教職員、学生など)
- ⑥**企業や労働組合**などで、社員・組合員のボランティア活動参加を支援する担当スタッフ
- ⑦**国・自治体**などで市民や市民活動との「協働」の推進、または職員のボランティア活動推進を担当するスタッフ
- ⑧**ボランティアセンター、市民活動支援センター、国際交流協会**などのボランティア担当スタッフ、ボランティアコーディネーター
- ⑨ボランティアコーディネーターまたはボランティアコーディネーションの**研究および研修・養成に関わっている方**

会場案内

メイン会場1

ドーンセンター (大阪府立男女共同参画・青少年センター)
大阪市中央区大手前1-3-49

会場2

大阪マーチャンドライズ・マート(OMM)
大阪市中央区大手前1-7-31

会場3

CANVAS(キャンパス)谷町
大阪市中央区谷町2-2-20 2階

会場4

ホテル京阪天満橋 会議室
大阪市中央区谷町1-2-10

会場最寄り駅は地下鉄谷町線・天満橋駅、京阪・天満橋駅。
※お越しの際は、公共交通機関をご利用ください。



プログラムの構成

2月28日(土)

時間	内容	
9:30	開場	
10:00 ~ 11:50	開会・オープニング (会場: OMM)	
13:30 ~ 15:00	分科会 A A-1 ~ A-10	ショート分科会 S-1 ~ S-3
		ショート分科会 S-4 ~ S-6
15:30 ~ 17:00	交流会 (会場: ドーンセンター)	

3月1日(日)

時間	内容
9:00	開場
9:30 ~ 13:00	分科会 B-1 ~ B-10
	クロージング (会場: ドーンセンター)
14:00 ~ 15:30	クロージング (会場: ドーンセンター)
15:45 ~ 17:45	JVCA 総会 (会場: ドーンセンター)

※1日目の分科会Aとショート分科会Sは、どちらかをお選びください。

プログラムの一覧

2月28日(土) 10:00~19:30

No	分野	テーマ
オープニング		超(こえつ)・声(こえつ)・肥(こ) エルパ ボランティアコーディネーション、 ~カギは「越境」と「わくわく感」~
分科会 A 13:30 ~ 17:00		
A-1	福祉	ボランティアコーディネーターが翻訳する生活困窮者自立支援事業 ~いつ・だれと・どこで・どうやって・つながるか~
A-2	福祉施設	「サスガッすね! 社会福祉法人」となるためのボランティアコーディネーションとは? ~地域・学校・社協等との「協働」により新たな「社会資源」へ~
A-3	災害	地域の声をキャッチして「つなぐ、つなげる」災害時のコーディネーションの視点 ~日頃からの関係づくりや社会資源の巻き込みを活かしていますか?~
A-4	若者	市民社会の担い手をどう育むのか? ~青少年と明日を拓くためのボランティアコーディネーションを考える~
A-5	企業	地域の中で企業ボランティアを活かすコーディネーションを探る ~地域と企業が「win-win」な関係だからこそそのボランティアプログラムの創出~
A-6	人材育成	ボランティアコーディネーション現場における「人を育てる仕組み」 ~部下や後輩の育成をスーパービジョンの手法から考える~
A-7	運営	ボランティアがたくさん集まる魅力ある組織とは? ~病院&福祉施設のコーディネーションを考える~
A-8	運営	社会を変える「お金」と「人」の集まるしくみ
A-9	基礎	【基礎研修】 中間支援におけるボランティアコーディネーション
A-10	基礎	【基礎研修】 施設・団体におけるボランティアコーディネーション
ショート分科会(前半) 13:30 ~ 15:00		
S-1	スポーツ	スポーツボランティアの動向とコーディネーションのポイント
S-2	地域福祉	子どもの貧困対策に向き合う地域のボランティアコーディネーション ~地域が主役で課題解決!!~
S-3	まちづくり	地縁型とテーマ型をつなぐ地域密着コーディネーションのコツ ~徹底解剖! 岸和田だんじり祭 車いすマップ&ツアー企画の舞台裏~
ショート分科会(後半) 15:30 ~ 17:00		
S-4	子ども	児童養護施設におけるボランティアコーディネーションの意義と課題 ~社会的養護を必要とする子ども達への自尊感情を育む学習支援ボランティア~
S-5	運営	ソーシャルビジネス・事業型NPOとボランティア参加 ~ボランティアの力を活かした組織運営~
S-6	福祉	福祉制度の変遷とボランティア ~その存在意義・可能性に光を当てるボランティアコーディネーターの役割とは~
交流会	交流会にいらっしゃ~い!	

3月1日(日) 9:30~15:30

No	分野	テーマ
分科会 B 9:30 ~ 13:00		
B-1	福祉	支援「する側」「される側」を越えるコーディネーション ~生きづらさに寄り添い「居場所」と「役割」を創り出すカギ~
B-2	災害	災害ボランティアセンター運営をデザインする ~キーワードは社会福祉協議会、地域団体、専門機関、そして若者力!~
B-3	若者	イマドキ若者の傾向と対策をつかみ、ボランティアコーディネーションにいかす ~若者の実態を探り、響く関わりを考えよう~
B-4	地域	住民コーディネーターが紡ぐ、もう1つのボランティアコーディネーション ~地区ボランティアセンターを事例として。その意義・実践・可能性~
B-5	地域	主体的ではないボランティア!?! のコーディネーション ~これからの地域づくりで求められるもの~
B-6	多文化	地域の外国籍住民・留学生を巻き込んだボランティアコーディネーション ~ボランティアの「対象」から「主体」への移行と地域コミュニティの形成~
B-7	医療	アプローチマッチング ~互いのアクションからつながる病院ボランティア活動~
B-8	イベント	「分野・地域・ひと」を結びつけるイベント型ボランティアコーディネーション ~こんなイベントなら参加したい!! と思えるためのプロセスを共有しませんか~
B-9	運営	なぜボランティアが「人手」として使われるのか? ~中間支援団体・ボランティア受け入れ団体に必要とされること~
B-10	運営	市民の主体的な参画で魅力的な事業を展開するには? ~ボランティアと共に魅力的な事業を創造するコーディネーションとは~

クロージング どこもかしこも「コーディネーター」流行り!
~「ボランティアコーディネーター」の立ち位置は?~

JVCA 2015年度通常総会

前日おもてなし企画

一足早く大阪入りして、土地の人と出会う機会や、集会前夜から懇親できるような企画中。をうご期待!

- 日 時: 2月27日(金) 午後から夜にかけて順次
- 会 場: 神戸、大阪
- コース(案): 「神戸・震災20年まちあるき」「大阪・空堀商店街と若者コミュニティ」「前夜祭」など
- 参加費: コースごとに実費を設定

ボランティアコーディネーション力検定1・2級合格者の集い

JVCC2015開催にあわせて企画中。検定1・2級合格者の「顔の見える関係づくり」のキックオフミーティングにしましょう!

- 日 時: 2月27日(金) 19:00~24:00
- ※随時、合流ください
- 会 場: CANVAS谷町
- ホスト: 長谷部治、竹田純子、永井美佳

※詳しくは、ウェブサイト・フェイスブックで告知します。

こえっ こえっ こ
超・声・肥エル

ボランティアコーディネーション
～カギは「越境」と「わくわく感」～

さまざまな地域課題や社会課題を解決するプロセスに市民参加をうながす「ボランティアコーディネーション」と、新たな結びつきを通じて、自分たちの力で課題を解決しようとする「コミュニティデザイン」。実は両者は深い部分でつながっているのでは？ オープニング全体会では、市民参加による課題解決の実践例を両者の観点から紹介するとともに、そこにどのような視点や手法が効いているのか、また各取り組みの魅力や可能性、課題を深堀りします。そして、持続可能な市民社会に向けて、ボランティアコーディネーターが果たす役割について、問題提起をいただきます。

【登壇者】

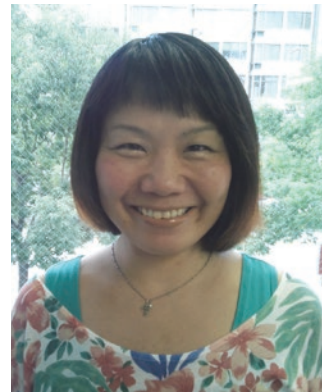


井岡 仁志さん
(高島市社会福祉協議会 地域福祉課長兼ボランティア・福祉学習センター長/JVCA理事)



山崎 亮さん
(studio-L代表)

【コーディネーター】



永井 美佳さん
(大阪ボランティア協会 事務局次長/JVCA理事) ●

[担当] 青木 淳(大阪府社会福祉協議会)/青山 織衣(岸和田市社会福祉協議会)/赤澤 清孝(コースビジョン)/河合 将生(office musubime)/川口 加奈子(大阪市社会福祉協議会)/椎名 保友(日常生活支援ネットワーク「パーティ・パーティ」)/竹田 純子(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター)

分科会A 2月28日(土) 13:30~17:00

A-1

福祉

13:30~17:00

定員/30人

【対象】生活困窮者支援に関心のある方(とくに元ボランティアセンター担当で生活困窮者自立支援事業担当者やボランティアセンター担当者歓迎)

ボランティアコーディネーターが翻訳する生活困窮者自立支援事業
～いつ・だれと・どこで・どうやって・つながるか～

もうすぐ、あなたのまちでも生活困窮者自立支援事業が始まります。準備はOKですか？

この分科会では、ボランティアコーディネーターの視点で生活困窮者自立支援事業を読み解き、市民の参加を得て事業に取り組むために、前半は元ボランティアコーディネーターで現モデル事業担当者から、支援過程での地域やボランティアとの関わり、地域づくり等について報告いただき、後半は、生活困窮世帯の事例検討とグループワークを行います。生活困窮者支援に必要な社会資源等を可視化するなかで、ボランティアコーディネーションとの結びつきを考えます。

【ファシリテーター】阿部 陽一郎さん(全国社会福祉協議会 地域福祉部 担当部長/JVCA理事)

【事例発表者】葛城 朋子さん(津市社会福祉協議会)、飯野 弥生さん(佐倉市健康子ども部児童青少年課)、
鯉淵 百合子さん(佐倉市社会福祉協議会/JVCA運営委員)

[担当] 疋田 恵子(杉並区社会福祉協議会/JVCA理事)

A-2

福祉施設

13:30～17:00

定員／30人

【対象】社会福祉施設のボランティア担当職員、福祉施設との連携による地域づくりに興味がある方

「サスガツすね!社会福祉法人」となるためのボランティアコーディネーションとは？ ～地域・学校・社協等との「協働」により新たな「社会資源」へ～

近年、社会福祉法人を取り巻く環境は厳しさを増しています。しかし、元来、地域の公的な資源として地域社会に開かれ、まちづくりのキーパソンになるべき公益法人としての役割があります。この分科会では、社会福祉法人の存在意義や強みをおさえつつ、

- 施設と地域住民をつなぐために、その強みをどのように活かすのか？
- そこで求められる力＝ボランティアコーディネートとは何か？
- 関係機関との協働により、新たな社会資源になる可能性は？

などについて、実践的な学びと議論を深め、担当者を応援する場としたいと思います。

【コーディネーター】石井 祐理子さん(京都光華女子大学 准教授)

【事例発表者】大野 真太郎さん(四天王寺福祉事業団(四天王寺悲田院 地域支援係) コミュニティソーシャルワーカー)

牧野 郁さん(市原寮(介護老人福祉施設 花友にしこうじ) 生活相談員・ボランティアコーディネーター)

[担当] 片山 宣博(産経新聞厚生文化事業団)／中本 勝也(邦寿会)／青木 淳(大阪府社会福祉協議会)

A-3

災害

13:30～17:00

定員／30人

【対象】社会福祉協議会やNPO中間支援組織の方、企業等での社会貢献活動担当の方

地域の声をキャッチして「つなぐ、つなげる」災害時のコーディネーションの視点 ～日頃からの関係づくりや社会資源の巻き込みを活かしていますか？～

災害時の活動が、普段の社協活動やボランティア・市民活動とつながっていないという指摘をよく聞きます。住民の「声なき声」をどうキャッチし、ニーズとして上げ支援につなぐことができるかが課題です。災害時対応に必要な要素となる「個別支援・コミュニティ支援・ネットワーク支援」には、日頃から取り組んでいるはず。「災害時の対応をする」というより、「日頃の活動をする」と捉えることの必要性を理解するために、日頃の取り組みを活かしたコーディネートの視点を考えます。

【講師／コーディネーター】井岡 仁志さん(高島市社会福祉協議会 地域福祉課長 兼 ボランティア・福祉学習センター長／JVCA理事)

【事例発表者】波多野 好則さん(宍粟市社会福祉協議会 千種支部長 兼 地域支援課主任)、猪俣 健一さん(阪南市社会福祉協議会)

[担当] 山岡 慶子(東大阪市社会福祉協議会)／土橋 一晃(わかやまNPOセンター)

A-4

若者

13:30～17:00

定員／30人

【対象】青少年世代とかかわりのあるボランティアコーディネーター、テーマに関心のある方

市民社会の担い手をどう育むのか？ ～青少年と明日を拓くためのボランティアコーディネーションを考える～

青少年世代と一緒に活動を進めていくことに難しさを感じたことはないですか？ 彼らと一緒に活動する際には、この世代特有の揺れや葛藤などに付き合うことや社会的なルールを教えることなども必要です。その上、コミュニケーション手段が違うことも…。彼らと適切な関係性を築きながら活動を進めるためには、多大なエネルギーと細やかな配慮が求められます。

青少年を市民社会の担い手として育てて行くために、私達が『出来ること』、『目指すこと』を共有し、現状から一歩進むためのコーディネーションを一緒に考えましょう。

【講師】村上 徹也さん(市民社会コンサルタント)

[担当] 竹田 純子(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター)

A-5

企業

13:30~17:00

定員/30人

【対象】企業の社会貢献・ボランティア支援担当者、企業との連携に関心を持つボランティアコーディネーター

地域の中で企業ボランティアを活かすコーディネーションを探る ～地域と企業が「win-win」な関係だからこそそのボランティアプログラムの創出～

「社員のボランティア活動で地域貢献がしたい!」。しかし、企業の思惑と地域・社会ニーズとがなかなか合致しないのが現実ではないでしょうか。この分科会では、多くのコミュニティ・パートナーと一緒に企画した多様なプログラムによる地域貢献活動事例と、意外なマッチングによる「win-win」な関係づくりが最大限発揮できたプログラム事例を検証します。そして、地域のボランティアコーディネーターが持つ情報やネットワークと企業が持つ資材(人・物・場所等)のマッチングによる新たなボランティアプログラムの創出を考えます。

【ファシリテーター】水谷 綾さん(大阪ボランティア協会 事務局長)

【事例発表者】河村 暁子さん(東京ボランティア・市民活動センター 主任)

麻崎 久美子さん(ゴールドマン・サックス証券 コーポレート・エンゲージメント)

水野 恵子さん(西区子ども・子育てプラザ)、永野 安教さん(大阪トヨペット 営業人材開発部 次長)

[担当] 林 由以子(大阪商工信用金庫 CSR推進室) / 中野 伊津子(大阪ガス 近畿圏部 社会貢献推進室) / 椎名 保友(日常生活支援ネットワーク「パーティ・パーティ」)

A-6

人材育成

13:30~17:00

定員/15人

【対象】部下や後輩がいる中間支援組織(センター)のセンター長、コーディネーター

ボランティアコーディネーション現場における「人を育てる仕組み」 ～部下や後輩の育成をスーパービジョンの手法から考える～

ボランティアコーディネーション現場における人材育成は、多くがコーディネーターの自助努力と力量頼みになっている現状があります。また、マニュアルや業務の引き継ぎでは共感を得にくいボランティアコーディネーションの価値や視点を組織(チーム)の中で共有することは容易ではなく、部下や後輩にどう伝えたらいいのか戸惑うリーダーやコーディネーターも少なくありません。そこで、この分科会では、「スーパービジョン」の考え方と手法を用いて、ボランティアコーディネーターを育成するための仕組みづくりについて学び合います。

※実践事例提供のお願い(任意)を後日させていただきます。

【講師(発題)】松本 昌宏さん(日光市社会福祉協議会 地域福祉活動推進係長/地域福祉デザイン戦略室担当)

【ファシリテーター】後藤 麻理子さん(日本ボランティアコーディネーター協会 事務局長)

[担当] 柳瀬 真佐子(吹田市市民活動支援センター)

A-7

運営

13:30~17:00

定員/30人

【対象】病院・福祉施設に勤務するボランティアコーディネーター、ボランティア担当者、このテーマに関心のある方

ボランティアがたくさん集まる魅力ある組織とは？ ～病院&福祉施設のコーディネーションを考える～

人(ボランティア)がたくさん集まる組織には、参加したくなる魅力があるものです。病院や福祉施設のボランティアは個人参加も多く、活動者同士がボランティアグループ・チームとなっていきます。ボランティア組織を活性化させる仕掛け人としてのボランティアコーディネーションのWANT・CAN・MUSTを学び、病院や施設にあったスタイルを確立しましょう。「人が集まるボランティア組織をどうつくるのか」の著者である長沼豊さんにファシリテートしていただき、ボランティアが生き生きと活躍できる組織、その人的マネジメントの働きを教育の視点で学びあいます。

【講師】長沼 豊さん(学習院大学 教授/JVCA理事)

【事例発表者】竹内 和泉さん(聖路加国際病院 ボランティアコーディネーター)、森 賢一さん(高齢者福祉施設 本能 介護部長)

[担当] 戸田 玲奈(神戸市立医療センター中央市民病院) / 松尾 裕美(大阪府済生会中津病院) / 船橋 幸子(大阪医科大学附属病院) / 橋口 文博(じゅうしん須磨寺/JVCA運営委員)

A-8	運営	13:30~17:00	定員/20人
【対象】人とお金を味方につけて社会を変えたいボランティアコーディネーター			
社会を変える「お金」と「人」の集まるしくみ			
<p>ボランティアコーディネーションとファンドレイジングは市民活動を活性化するための両輪。「お金があれば、人がいれば、もっと社会は変わるのに!!」。そんな悩みを抱えているコーディネーターは多いのではないのでしょうか。この分科会では、社会を変えるための資源としての「お金(ファンド)」と「人(ボランティア)」を、活動に巻き込んでいくためにはどのようにしたらよいかについて、実際のファンドレイジングの事例から学び、実践に活かすワークを行います。</p> <p>【講師】鶴尾 雅隆さん(日本ファンドレイジング協会 代表理事/JVCA副代表理事) 【講師・事例発表者】木村 真樹さん(コミュニティ・ユース・バンクmomo/あいちコミュニティ財団 代表理事) <small>[担当] 三田 響子(相模原市社会福祉協議会/JVCA運営委員)/河合 将生(office musubime)/土崎 雄祐(宇都宮大学/JVCA運営委員)</small></p>			

A-9	基礎	13:30~17:00	定員/30人
【対象】社会福祉協議会、NPO支援センター、大学ボランティアセンターなどの中間支援組織でボランティアコーディネーションに携わる初心者(おおむね1年未満)の方、または今後その予定がある方。「まず、学びたい」という方			
【基礎研修】中間支援におけるボランティアコーディネーション			
<p>社会福祉協議会、NPO支援センター、大学ボランティアセンターなど、中間支援の役割を持った組織におけるボランティアコーディネーションの基本的な考え方や、コーディネーターの役割などを学びます。</p> <p>【講師】唐木 理恵子さん(紬ワークス 代表/JVCA理事) ●</p>			

A-10	基礎	13:30~17:00	定員/30人
【対象】病院、福祉施設、美術館、文化施設や非営利組織・団体などでボランティアコーディネーションに携わる初心者(おおむね1年未満)の方、または今後その予定がある方。「まず、学びたい」という方			
【基礎研修】施設・団体におけるボランティアコーディネーション			
<p>病院、福祉施設、美術館、文化施設や非営利組織・団体などにおけるボランティア受け入れの手法(ボランティアマネジメント)について、基本的な考え方や、コーディネーターの役割などを学びます。</p> <p>【講師】西村 ころろさん(岡山県ボランティア・NPO活動支援センター(ゆうあいセンター) センター長補佐/事業チームリーダー/JVCA運営委員) ●</p>			

ショート分科会 (前半) 2月28日 (土) 13:30~15:00

S-1	スポーツ	13:30~15:00	定員/30人
【対象】社会福祉協議会や大学等のボランティアセンターのコーディネーター、スポーツイベントを企画する行政やNPOのスタッフ、その他、スポーツボランティアに関心のある方			
スポーツボランティアの動向とコーディネーションのポイント			
<p>野球やサッカー観戦など「見るスポーツ」や、ウォーキング・ジョギングなど「するスポーツ」のすそ野が広がっています。それに加えて、近年「ささえるスポーツ」として、スポーツにおけるボランティア活動への注目が高まっています。ボランティアセンターでも、スポーツイベントのボランティア募集が増加していると聞きます。さらに、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが…。本分科会では、スポーツボランティアの定義や種類、最近の傾向などを学び、スポーツ分野でのボランティアコーディネーションのポイントを一緒に考えます。</p> <p>【講師】松永 敬子さん(龍谷大学経営学部 スポーツサイエンスコース 教授) <small>[担当] 筒井 のり子(龍谷大学/JVCA代表理事)</small></p>			

S-2

地域福祉

13:30～15:00

定員／20人

【対象】子どもの貧困対策や生活困窮者自立支援などの枠組みの事業に携わっている、またはその予定がある方、課題解決のために地域や学校との連携を進めていきたい施設職員、その他、本テーマに関心のある方

子どもの貧困対策に向き合う地域のボランティアコーディネーション ～地域が主役で課題解決!!～

『子供貧困対策に関する大綱』で示された「学校をプラットフォームとした教育支援」。その先行事例ともいえる学習支援事業が京都市内のある中学校で行われています。地域の「子どもの貧困」問題解決のために地域の社協、NPO、青少年施設が協働し「地域主体」の学習支援プロジェクトを紡ぎ出した過程を報告します。またそこから派生した取り組みや今後の展望、他地域へのモデル移転の可能性などを意見交換で深めたいと思います。そして地域の課題解決に向けて、支援のネットワークが広がっていく中で関わる人々に芽生えた“わくわく感”も見逃せません!

【事例発表者】上原 裕介さん(京都市ユースサービス協会 職員)

【コメンテーター】村井 琢哉さん(山科醍醐こどものひろば 理事長)

【担当】横関 つかさ(京都市ユースサービス協会)

S-3

まちづくり

13:30～15:00

定員／20人

【対象】中間支援組織のスタッフ、社会福祉協議会のコミュニティワーカー・ボランティアセンタースタッフ、このテーマに関心のある方

地縁型とテーマ型をつなぐ地域密着コーディネーションのコツ ～徹底解剖! 岸和田だんじり祭 車いすマップ&ツアー企画の舞台裏～

ボランティアコーディネーターにとって、永遠のテーマとも言える「地縁型」と「テーマ型」の連携・協働の関係づくり。地域特性や両者の立場の相違で間に挟まれることもしばしばではないでしょうか?

本分科会では、「岸和田だんじり祭」という地域の伝統行事に地縁型とテーマ型の市民が連携して新しい風を吹き込んだ事例について、コーディネーターの動きやねらいを時系列で整理して丁寧に読み解き、地域密着のコーディネーションのポイントを参加者全員で考えます。あなたの地域にもぎっと活かしてもらえるヒントが盛りだくさんです!

【ファシリテーター・事例発表者】青山 織衣さん(岸和田市社会福祉協議会 ボランティアコーディネーター) ●

【ファシリテーター】三林 達哉さん(岸和田市社会福祉協議会)

ショート分科会 (後半) 2月28日 (土) 15:30～17:00

S-4

こども

15:30～17:00

定員／24人

【対象】社会福祉施設のボランティアコーディネーター、社会福祉協議会のボランティアコーディネーター、学習支援に関心がある方

児童養護施設におけるボランティアコーディネーションの意義と課題 ～社会的養護を必要とする子ども達への自尊感情を育む学習支援ボランティア～

児童養護施設の子供達は、高校進学ができれば、少なくとも3年間は3食の温かい食事と孤立感から脱却でき、高校生活での交友関係も広がっていきます。しかし、子ども達の多くは、虐待等により学習習慣が身につけていないため学習不振に陥りやすいです。学習支援ボランティアは、単なる学習支援にとどまりません。学生も子ども達からの『試し行動』を受け『ゆらぎ』を経験し、子どもと学生双方が交わりを通して、学び合い、気づき、つながり育ち合っていきます。本分科会では、このような学習支援ボランティアへのコーディネート意義と課題について考えます。

【講師】新崎 国広さん(大阪教育大学 准教授)

【事例発表者】細見 久視さん(児童養護施設 武田塾 里親支援専門相談員)

木地谷 希美さん(茨木市社会福祉協議会、元・武田塾学習支援スタッフ)

岩山 美月さん(大阪教育大学 武田塾学習支援スタッフリーダー) 他

S-5

運営

15:30~17:00

定員/20人

【対象】ボランティア参加を組織の力にしていきたいNPOや社会福祉協議会等の団体関係者、ボランティアコーディネーターに携わる方。ソーシャルビジネスや事業型の団体に関心のある方、NPO等のマネジメントに関心のある方

ソーシャルビジネス・事業型NPOとボランティア参加 ～ボランティアの力を活かした組織運営～

ソーシャルビジネスの手法を取り入れ、事業型で運営されるNPO等の団体において、市民参加やボランティアコーディネーターはどのようなのでしょうか。

ソーシャルビジネスの仕組みやファンドレイジングの取り組みが注目される中、組織運営や事業企画に積極的にボランティアの参画を得て運営の基盤とし、コーディネーターを工夫しながら組織運営の大きな力にしている団体もあります。そうした団体の事例を通して、他団体でも取り入れることができるコーディネーターの視点やボランティアの力を活かした組織運営について学びましょう。

【事例発表者】鶴巻 耕介さん(プレーンヒューマニティ 事務局次長)

[担当] 河合 将生 (office musubime)

S-6

福祉

15:30~17:00

定員/20人

【対象】このテーマに関心のある方

福祉制度の変遷とボランティア ～その存在意義・可能性に光を当てるボランティアコーディネーターの役割とは～

福祉制度の変遷とボランティアの関係をみると、単なるマンパワーとして利用されるのではなく、ボランティアならではの強みや魅力を発揮して活動できるようコーディネートするボランティアコーディネーターの専門性が、いつの時代も問われ続けてきました。

ここでは、ボランティアと関連する昨今の主な動向、例えば、介護保険法の一部改正や生活困窮者自立支援法などを確認し、その中でも、ボランティアが輝きを失うことなく活動し、その存在意義や可能性に光を当てるコーディネーションのあり方を、事例を交えて考えていきます。

【講師】岩本 裕子さん(関西学院大学 助教)

【事例発表者】武 直樹さん(いくの市民活動支援センター 代表理事)

[担当] 南 多恵子(京都光華女子大学)

交流会

2月28日(土) 17:30~19:30

交流会にいらっしゃ〜い♪

※日曜昼に放送している桂文枝さん・山瀬まみさんの「新婚さん! いらっしゃ〜い!」風に読んでください!

交流会は、情報交換、出会いの場!

この日のために全国から集ったボランティアコーディネーターと、もっと語り合い、もっと交流を深めませんか?

全体会や分科会で受けた刺激・テンションをそのまま交流会で弾けさせましょう!

講師や事例報告者の皆さんの多くもご参加されますので、ぜひ、この機会に心の壁をとっばらしましょう!

★お土産選手権:各地のお土産を持ち寄ってもらい、人気投票を実施

★写真スライドショー:1日目の様子をプロジェクターでスライドショーなど

【参加費】1人3,800円(このプログラムは別料金です)

[担当] 井上 恵理子(八尾市文化会館)/諏訪 ゆず子(八尾市文化会館)/横関つかさ(京都市ユースサービス協会)

B-1

福祉

9:30~13:00

定員/20人

【対象】ボランティアセンタースタッフ、社協の地域担当ワーカー、福祉施設のボランティアコーディネーター、若者支援に関わるボランティアコーディネーター、その他このテーマに関心のある方

支援「する側」「される側」を越えるコーディネーション ～生きづらさに寄り添い「居場所」と「役割」を創り出すカギ～

病気や障害、また自分のルーツや生育環境など、背景は異なるものの、生きづらさや孤独感、疎外感を抱えている人たち。このような人は、ともしれば「支援を受ける側」「役に立たない人」と捉えられがちですが、私たちボランティアコーディネーターには、エンパワメントの視点を持って、ひとりひとりが自分の価値を再認識できる「居場所」と「役割」を創り出す力量が求められています。

生きづらさを抱える人に寄り添いながら、あらゆる人が市民社会の担い手となれるような伴走型のコーディネーションについて、参加者全員で考えてみませんか？

【講師・事例発表者】菊池 まゆみさん(秋田県藤里町社会福祉協議会 常務理事 兼 上席事務局長)

【事例発表者】松村 幸裕子さん(暮らしづくりネットワーク北芝 スタッフ)、石川 智規さん(紫野カルチャー亭運営協議会 事務局長)

[担当] 金 相文(とよなか国際交流協会) / 片山 宣博(産経新聞厚生文化事業団) / 青山 織衣(岸和田市社会福祉協議会) [協力] 山本 房(とよなか国際交流協会)

B-2

災害

9:30~13:00

定員/20人

【対象】ボランティアセンター、NPO、大学関係者、関心のある方

災害ボランティアセンター運営をデザインする ～キーワードは社会福祉協議会、地域団体、専門機関、そして若者力！～

今後の災害を想定して、迅速に災害ボランティアセンター(DVC)を設置するために、平常時の準備が求められます。ボランティア受入、マッチング、必要な資材の確保も平常時から協議しておく必要があります。そこで本分科会では社会福祉協議会、地域団体(自治会、地域の様々な団体)、NPO等の専門機関、若者(または送り出す大学等)との連携を考えたいと思います。被災地の多様な問題を解決するために、各々の役割を理解し、互いの強みを引き出し合える「包括的」なコーディネーションとはどういうものかを一緒に話し合いませんか。

【事例発表者】南出 考さん(和歌山県社会福祉協議会 主査)、其田 雅美さん(東北学院大学ボランティアステーション 担当者)

【ファシリテーター・事例発表】杉浦 健さん(関西学院大学ヒューマンサービスセンター 担当者) ●

[担当] 垂井 加寿恵(神戸市西区社会福祉協議会) / 川口 謙造(神戸学院大学ボランティア活動支援室)

B-3

若者

9:30~13:00

定員/15人

【対象】大学ボランティアセンター職員、若者支援に関わるNPOスタッフ

イマドキ若者の傾向と対策をつかみ、ボランティアコーディネーションにいかす ～若者の実態を探り、響く関わりを考えよう～

学生や若者と接することの多い、大学ボランティアセンターや若者支援に関わるNPOスタッフのみなさん!最近、異変を感じていませんか? 「若者の様子が変わってきている」、「今までの若者像・学生像にあてはまらないことが増えている」、「これまでのやり方では若者たちに響いていない」、等感じていませんか? この分科会では、若者との関わりで実際に起こった事例や参加者が感じている“違和感”を共有し、イマドキの若者たちの現状をつかんだ上で、ボランティアコーディネーションにいかすポイントを参加者みんなで考えます。

【事例発表者】森川 有紀さん(ユースビジョン 学生Place+コーディネーター)

[担当] 白井 恭子(立命館大学サービスマーケティングセンター) [協力] 芝原 浩美(ユースビジョン)、山崎 智文(京都産業大学ボランティアセンター)

B-4

地域

9:30~13:00

定員/50人

【対象】このテーマに関心のある方ならどなたでも

住民コーディネーターが紡ぐ、もう1つのボランティアコーディネーション ～地区ボランティアセンターを事例として。その意義・実践・可能性～

ニーズが複雑化する昨今では、地域福祉を推進する社会福祉協議会への期待値は高く、その機能強化はますます問われています。その手だてとして欠かせないのは“住民と専門職の協働”による課題解決のスタイル。そこで、住民ならではの視点と行動力と職員の専門性を活かした「地区ボランティアセンター」を展開する社協を取り上げ、2つの事例を読み解きます。住民コーディネーターと職員が紡ぐボランティアコーディネーションの意義、実践を紐解きながら、その可能性を参加者ととも考え、これからの方向性を確認する場としたいと思います。

【講師・コメンテーター】藤井 博志さん(神戸学院大学 教授)

【事例発表者】瀧内 和之さん(伊丹市 摂陽地区福祉のまちづくり協議会 副会長 福祉部長)

兼田 美紀さん(伊丹市社会福祉協議会 地域福祉推進担当)

拝藤 あい子さん(高島市 安曇川住民福祉ネットワーク 副代表)

井岡 仁志さん(高島市社会福祉協議会 地域福祉課長 兼 ボランティア・福祉学習センター長/JVCA理事)

【進行】南 多恵子さん(京都光華女子大学 講師)

[担当] 山本 豊広(堺市社会福祉協議会)

B-5

地域

9:30~13:00

定員/30人

【対象】市民活動センター、社協、NPO、地域コミュニティ団体、学生など

『主体的ではないボランティア!?!』のコーディネーション ～これからの地域づくりで求められるもの～

現在、全国各地で新しい地域の枠組みが検討され、住民組織だけでなく、ボランティア団体、NPO、企業などが地域に参画しはじめています。では、地域に多様な主体が参画していく際、どのようなボランティアコーディネーションが必要となってくるのでしょうか。特に、地縁団体の多くは高齢化、担い手不足といった課題を抱えており、NPOなどのテーマ型と違って、必ずしも主体的に関わっている人ばかりではありません。その意味で、“主体的ではないボランティア”であった人々が、意欲的な参加に発展している事例を学び、今後の実践を考えます。

【コーディネーター】加留部 貴行さん(九州大学大学院 客員准教授/日本ファシリテーション協会 フェロー/JVCA運営委員) ●

【事例発表者】木村 武史さん(榎本地域活動協議会)、坂下 靖子さん(たかしま市民協働交流センター 事務局長)、

馬袋 真紀さん(朝来市 市長公室総合政策課 副主幹)

[担当] 柳瀬 真佐子(吹田市立市民公益活動センター)/春貴 勇力(吹田市立市民公益活動センター)

B-6

多文化

9:30~13:00

定員/20人

【対象】地域の外国籍の方や留学生とかかわる大学ボランティアセンター、社会福祉協議会、NGO・NPOなどの職員。病院などの医療現場や震災・災害時に、多文化・多言語の視点で働く必要がある方

地域の外国籍住民・留学生を巻き込んだボランティアコーディネーション ～ボランティアの「対象」から「主体」への移行と地域コミュニティの形成～

社会の変化とともに、外国籍住民や留学生の主体性を活かすボランティアコーディネーションが求められてきています。地域づくりには、市民の参画・協働が不可欠であり、外国籍住民の参加も同様にコミュニティの活力・資源であることを考えると、多様な市民が主体となって事業を展開するための活動基盤が必要となります。本分科会では、災害時の留学生ボランティアコーディネーション、医療通訳コーディネーションの事例から、多文化共生の視点で地域社会を支えるボランティアの必要性やコーディネーターの課題について事例を基に検証します。

【講師・コーディネーター】堀 永乃さん(グローバル人財サポート浜松 代表理事)

【事例発表者】菊池 哲佳さん(仙台国際交流協会 職員)

古山 季玲さん(多言語社会リソースかながわ(MICかながわ) コーディネーター 兼 中国語通訳)

[担当] 高橋 美和子(関西NGO協議会)

B-7

医療

9:30~13:00

定員/30人

【対象】病院に勤務するボランティアコーディネーター・ボランティア担当者、病院と協働・連携したい中間支援や送り出し機関の方、このテーマに関心のある方

アプローチマッチング ～互いのアクションからつながる病院ボランティア活動～

やってくるアプローチ、こちらからのアプローチ。院内の現場とボランティアとをつなぎ、互いの思いを尊重してマッチングするには、コーディネーターとしてパワーも技術も知恵も必要です。業務を1人で担うことが多い職種ですが、中間支援型や送り出し型とつながりを持ち、アクションを起こしませんか？ やる気のある企画持ち込みアプローチ、本当に現場のニーズがありますか？ あなたの外部への募集アプローチ、効果がありますか？ 受け入れる力とやる気を充電して、アプローチから始める新しい活動のHow toを学びましょう！

【講師/コーディネーター】西村 ころろさん(岡山県ボランティア・NPO活動支援センター(ゆうあいセンター) センター長補佐/事業チームリーダー/JVCA運営委員) ●

【事例発表者】角床 貴子さん(大阪市立大学医学部附属病院 ボランティアコーディネーター)
斉藤 早貴さん(立命館大学サービ斯拉ーニングセンター 学生コーディネーター)

[担当] 戸田 玲奈(神戸市立医療センター中央市民病院)、松尾 裕美(大阪府済生会中津病院)、船橋 幸子(大阪医科大学附属病院)、白井 恭子(立命館大学サービ斯拉ーニングセンター)

B-8

イベント

9:30~13:00

定員/30人

【対象】イベント主催・イベントコーディネーター経験者、中間支援でイベントボランティアに携わっている方、企業や大学・地域等でボランティアとイベントをつなぐ立場の方、イベント型ボランティア経験者

「分野、地域、ひと」を結びつけるイベント型ボランティアコーディネーション ～こんなイベントなら参加したい!!と思えるためのプロセスを共有しませんか～

近年、多様な立場の人たちがボランティアとしてイベントの企画や運営に携わっています。また、「来場できないが応援する」という人も含めて、多くの人がつながることでイベントが活発化されて波及効果を生んでいる事例が目立っています。

イベント型ボランティアコーディネーションは段階的に、①テーマ・企画設計と役割分担、②情報発信と募集、③ボランティアとの関係性形成、④会期中(当日)運営等、⑤ふりかえり、というプロセスで成り立っています。「愛知万博」や「祇園祭ごみゼロ大作戦」での事例発表に加えて、この5つのプロセスを考えるワークを通じ、参加者がそれぞれのイベントコーディネーションを共有し、検討し合うための分科会です。

【ファシリテーター】河合 将生さん(NPO組織基盤強化コンサルタント[office musubime] 代表)

【事例発表者】野池 雅人さん(きょうとNPOセンター 事務局長)、栗木 梨衣さん(愛知県国際交流協会 交流共生課課長)

[担当] 椎名 保友(日常生活支援ネットワーク「パーティ・パーティ」)/林 由以子(大阪商工信用金庫 CSR推進室)/中野 伊津子(大阪ガス 近畿圏部 社会貢献推進室)/渡邊 直樹(大阪府立大学ボランティアセンターV-staion)

B-9

運営

9:30~13:00

定員/24人

【対象】中間支援団体のボランティアコーディネーター、ボランティア受け入れ団体のボランティアコーディネーター

なぜボランティアが「人手」として使われるのか？ ～中間支援団体・ボランティア受け入れ団体に必要とされること～

近年、「ボランティア」は広く一般に知られるようになった一方で、ボランティア活動の現場では、ボランティアが「人手」として使われてしまうケースも少なくありません。なぜボランティアが「人手」として使われてしまうのでしょうか？ この分科会はワークショップ形式で、①ボランティアが「人手」として使われてしまう原因や背景、②原因から考えられる課題、③課題解決のために必要とされる実践的な取り組みについて、中間支援団体・ボランティア受け入れ団体双方の視点からみなさんと一緒に考えたいと思います。

【講師】小原 宗一さん(東京都北区社会福祉協議会/JVCA副代表理事)

【事例発表者】竹田 純子さん(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター ボランティアコーディネーター) ●

常岡 隆弘さん(玉美福祉会 高齢者ケアセンター向日葵 総務)

[担当] 萬代 由希子(関西福祉大学)/磯野 奈緒(市民活動サークルえん)/山岡 慶子(東大阪市社会福祉協議会)

B-10

運営

9:30~13:00

定員/25人

【対象】ボランティアと共に事業を展開している・していきたいボランティアコーディネーター、社会教育・文化施設等でボランティア活動を導入している・したい方

市民の主体的な参画で魅力的な事業を展開するには？ ～ボランティアと共に魅力的な事業を創造するコーディネーションとは～

「市民参画」、「開かれた施設運営」など市民と協働で社会課題・地域課題に取り組む仕組みづくりが求められる一方、安易に「ボランティア」を導入することにより、ボランティアのお客さん化やボランティア同士・ボランティアと職員との関係がこじれる等の問題も散見されます。この分科会では、どのように市民の主体的参画を得ていくのか、そして、ボランティアにとっても、また受け入れる施設等においてもwin-winの関係を築きながら、より魅力的な事業や社会的なインパクトを生み出していくコーディネーションのあり方について考察します。

【コーディネーター】妻鹿 ふみ子さん(東海大学 教授/JVCA理事)

【事例発表者】新堀 春輔さん(京都市環境保全活動推進協会(京エコロジーセンター指定管理者) 課長補佐/ボランティアコーディネーター) ●

異 照子さん(元東近江市立図書館 館長)

間瀬 勝一さん(小田原市民会館 館長、小田原市文化部文化政策課 芸術文化担当課長)

[担当] 井上 恵理子(八尾市文化振興事業団・八尾市文化会館) / 諏訪 ゆず子(八尾市文化振興事業団・八尾市文化会館) / 青山 織衣(岸和田市社会福祉協議会)

クロージング

3月1日(日) 14:00~15:30

どこもかしこも「コーディネーター」流行り! ～「ボランティアコーディネーター」の立ち位置は?～

JVCC2015の締めくくりは、2日のプログラムをふまえて、私たち「ボランティアコーディネーター」とはどのような専門職であるのかを確認し合う機会とします。

「21世紀はコーディネーターの時代」と言ってもいいほど、さまざまな分野・業界で「コーディネーター」と名のつく職種や役割が出現しました。また、業務が似ているコミュニティソーシャルワーカーが注目されています。その結果、現場からは「ボランティアコーディネーターの存在意義や位置づけが揺らいでいるのでは」との声も聞かれます。そこで、改めて「ボランティアコーディネーター」の立ち位置や役割についての整理を試みます。

【コーディネーター】早瀬 昇さん(JVCA理事/大阪ボランティア協会 常務理事)

【論点の整理と提案】筒井 のり子さん(JVCA代表理事/龍谷大学 教授)

【パネリスト】調整中(WEBでご確認ください)

3月1日(日) 15:45~17:45

JVCA 2015年度通常総会

JVCCのプログラム終了後、日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)の通常総会があります。大切な協議の場になりますので、会員の皆さんはぜひご出席ください。会員以外の方も傍聴できます。

※会員になることをお考えの方は、ぜひお越しください。JVCAのことがわかります。

「つながり広場」のご案内

JVCC期間中、会場内に「つながり広場」を開設しています!

～出会いと発見がいっぱいです～

ボランティアコーディネーションに役立つ情報をご紹介します。みなさまのご来場をお待ちしております。

◆ボランティアコーディネーションに関連する図書販売 ◆参加者持ち寄りによるパンフレット等情報設置コーナー

◆JVCAコーナー

・JVCAの活動紹介、会員マップ等の展示

・新規会員受付!!

(JVCC中に入会されるとその場でJVCC参加費の会員割引3,000円分をキャッシュバックします!)



**市民の社会参加
 を支えるプロを
 めざして**

市民が主体的に問題解決に取り組む社会を実現するために、一人ひとりの社会参加意識を高め、積極的に行動することを応援する専門スタッフとして「ボランティアコーディネーター」の存在はきわめて重要です。しかし、十分に社会的認知を得ていないことから、多様な分野で活動するボランティアコーディネーターの専門性の向上と社会的認知を進め、専門職としての確立を図ることを目的に、2001年1月に設立(同年8月にNPO法人化)いたしました。

JVCAがめざすもの

ボランティアコーディネーターを専門職として
 確立することをめざしています

事業・活動の3つの柱

ボランティアコーディネーターのネットワークの確立
 ボランティアコーディネーターの専門性の向上
 ボランティアコーディネーターの社会的認知の促進

取り組んでいる事業

1. 情報の収集と提供活動

- ①ニュースレターの発行
- ②メールマガジンの発信
- ③ブックレット・書籍の発行
- ④ホームページ・facebookの運営
- ⑤文献・データの情報収集

2. 全国研究集会の開催

- ①ボランティアコーディネーターたちが一堂に会する(全国ボランティアコーディネーター研究集会)の開催

3. 検定システムの実施

- ①ボランティアコーディネーション力1級・2級・3級検定試験・直前研修の実施
- ②JVCA認定ボランティアコーディネーターシステムの開発

4. 研修・セミナーの開催

- ①ボランティアコーディネーター初任者向け基礎研修の開催
- ②ボランティアコーディネーター実務者向けステップアップ研修の開催
- ③研修講師の派遣

5. 調査・研究活動

- ①JVCA会員ニーズ・満足度調査の実施
- ②ボランティアコーディネーター養成研修プログラムの開発、セミナーのモデル実施

6. ネットワークの推進

- ①会員メーリングリストの運営
- ②会員交流の場(CoCoサロン)の開催支援
- ③基本指針を読む会の普及
- ④国内外の関係団体との連携、協働

「ボランティアコーディネーション力検定」のご案内

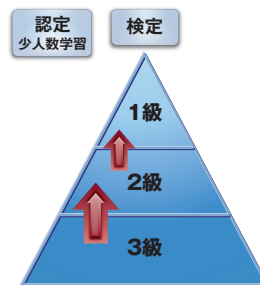
JVCAでは「ボランティアコーディネーション力」を、「ボランティア活動を理解し意義を認め、その活動のプロセスで多様な人や組織が対等な関係でつながり、新たな力を生み出せるように調整することで、一人ひとりが市民社会づくりに参加することを可能にする力」と定義しています。この力は、共生や協働をめざす現代社会において、ますます重要となっています。

そこでJVCAでは、ボランティアコーディネーションの重要性を多くの人に知っていただき、その力を身につけ、身近な地域社会や各自の所属する組織、その他幅広い市民活動の場面において発揮していただくために、「ボランティアコーディネーション力検定」と、専門職としてしっかり学ぶ「認定ボランティアコーディネーター」の2つのシステムを提案し、2009年から「検定」を開始しています。

●検定・認定のシステムの全体像

「検定」は、ボランティア活動やコーディネーションの経験がある皆さんに幅広く受けてほしい3級から始まり、実務を進める上でも役立つ2級、専門的な知識やスキルを身につける1級と、3つのレベルを設定しています。

一方、「認定ボランティアコーディネーター」は、ボランティアコーディネーションを業務で行う人の専門職としての資質向上を目的としたシステムで、現在開発中です。



詳しくは <http://jvca-vcokentei.org/>

認定特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-13 末よしビル別館 30D TEL:03-5225-1545 FAX:03-5225-1563
 E-mail:jvca@jvca2001.org <http://www.jvca2001.org/>  www.facebook.com/jvca2001

申込方法

①申込方法

下記WEBページからお申込いただくか(WEB早割扱いが可能)、裏面の参加申込書に必要事項をご記入のうえ事務局まで郵送またはFAXでお申込みください。

**JVCC2015 [WEBページ] <http://jvcc-web.jimdo.com/>
([WEB早割]の申込みは、1月31日(土)午後5時まで!)**



■「WEB早割」について

2015年1月31日(土)午後5時までに、上記のWEBページから申込まれた方は、参加費を1,000円割引きます。郵送ならびにFAXでのお申込みの場合、割引期間内でも上記割引は適用できませんので、ご注意ください。

申込締切日は、2015年2月6日(金)午後5時です。

※確認のため、控え(コピー)を保管してください。

※締切日前に定員に達した場合は、その時点で締切とさせていただきますので、早めにお申込みください。

★参加申込書に関する個人情報の取り扱いについて

※裏面参加申込書にご記入いただいた個人情報は、本研究集会の開催に必要な連絡調整、担当実行委員・講師への告知、今後の本研究集会と日本ボランティアコーディネーター協会の事業のご案内のみの目的で使用します。

- ただし、参加者同士の交流のために、名前、都道府県、所属団体、参加分科会は「参加者名簿」に掲載し、全参加者、全スタッフに配布します。
- 参加される分科会によっては、本要項に明記されていない場合でも、事前アンケートをお願いしたり、事前にメーリングリスト等が設置されたりすることがあります。

②参加費の送金

参加申込書を受付けた後、入金の手続きについてのご案内をお送りしますので、参加費等をお振り込みください。

(ご入金後は原則として返金できませんのでご了承ください。)

※集會中に、JVCAに入会されると、会員参加費との差額キャッシュバック!

会場内の「つながり広場」で入会手続きされると、その場で会員参加費との差額3,000円をご返金します。

※宿泊について

宿泊の手配は事務局では行いませんので、各自でお願い致します。混雑が予測されますので、**予約は早めになされることをおすすめします。**

問い合わせ

全国ボランティアコーディネーター研究集会2015 実行委員会大阪事務局

(社会福祉法人 大阪ボランティア協会内)

〒540-0012 大阪府中央区谷町2丁目2-20 2階

電話:06-6809-4901 FAX:06-6809-4902

Eメール:jvcc2015@jvca2001.org

URL:<http://jvcc-web.jimdo.com/>



Japan Volunteer
COORDINATORS
Association

申込書

2015年1月31日(土)午後5時までにWebで申し込めば「WEB早割」。
FAXは06-6809-4902(JVCC2015実行委員会大阪事務局)

★太枠内を正確に、かつハッキリとご記入ください。

※本紙は確認のため保管しておいてください。

ふりがな				<input type="checkbox"/> 一般	<input type="checkbox"/> JVCA正会員	<input type="checkbox"/> JVCA準会員
名前		歳代	<input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> 男	<input type="checkbox"/> ボランティアコーディネーションカ1級検定合格	<input type="checkbox"/> ボランティアコーディネーションカ2級検定合格	<input type="checkbox"/> ボランティアコーディネーションカ3級検定合格
所属団体	団体法人格等			役職・担当		
連絡先	(〒 -)	都道府県				
<input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> 自宅	TEL			携帯電話		
	FAX			E-mail		

あなたが、ボランティアコーディネーションに関わった年数	年 月
あなたの活動形態 (ボランティアコーディネーション業務の定義は1ページ)	<input type="checkbox"/> 専任でボランティアコーディネーション業務を担当 <input type="checkbox"/> 以前、担当していた <input type="checkbox"/> 兼任でボランティアコーディネーション業務を担当 <input type="checkbox"/> 担当したことはない
あなたの所属団体の活動分野 (最も近いものを1つ選んで下さい)	<input type="checkbox"/> 社会福祉 <input type="checkbox"/> 保健・医療 <input type="checkbox"/> 社会教育 <input type="checkbox"/> 青少年育成 <input type="checkbox"/> 環境保全 <input type="checkbox"/> 学校関係 <input type="checkbox"/> 国際交流・協力 <input type="checkbox"/> 男女共同参画 <input type="checkbox"/> まちづくり <input type="checkbox"/> 災害救援 <input type="checkbox"/> 企業関係 <input type="checkbox"/> 中間支援 (ボランティアセンターなど) <input type="checkbox"/> 国・自治体 <input type="checkbox"/> その他 ()
JVCCへの参加回数	<input type="checkbox"/> 初めて <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 <input type="checkbox"/> 4回以上

★参加希望分科会

		分科会番号	参加の動機 (分科会決定時の参考といたしますので、できるだけ詳しくお書き下さい)	
2月28日(土) A・Sいずれかを選択	分科会A	第1希望: A -		
		第2希望: A -		
		第3希望: A -		
	シヨート分科会S	前半	第1希望: S -	
			第2希望: S -	
			第3希望: S -	
3月1日(日)	分科会B	第1希望: B -		
		第2希望: B -		
		第3希望: B -		
交流会 2月28日(土)		<input type="checkbox"/> 参加 (参加費 3,800円)	<input type="checkbox"/> 不参加	

◆参加費 一般13,000円 (WEB早割12,000円)、JVCA正会員・準会員10,000円 (WEB早割9,000円)、交流会参加費3,800円

あなたの参加費は…	研究集会参加費	交流会参加費	合計
(★ご自身でご記入下さい)	円 +	円 =	円

特にご配慮が必要な点があればご記入下さい: ●車いす利用 ●その他 ()

事務局記入欄	受付日	受付連絡日	入力日	通知発送日	2/28分科会	3/1分科会	交流会		
--------	-----	-------	-----	-------	---------	--------	-----	--	--